

学年通信

『なかま』

四日市市立三滝中学校
第2学年 第15号
2021.10.20.

人権講演会「差別をしない・支えない・なくす努力を学び、行動する」

ヒューリアみえから、松村元樹さんを迎えて、人権講演会を行いました。本当は直接話を聞かせてもらえるとよかったです、密を避けるという意味で、2年生は教室で聞かせてもらいました。

松村さんが今まで経験してきたことから、偏見や決めつけのことを話されました。**自分がそうだから。外見から判断して。男性(女性)にはこういう人が多いから。自分のまわり・社会にはそういう人が多いから。**こういったことから、勝手な思い込みや偏った見方につながってしまうことがあります。そういった自分に気づくこと、また周りに気づかされることを通して、いじめや差別を許さない集団に成長していってほしいと願っています。



『同調圧力』という言葉も出てきましたね。

また、「マジョリティ(多数派)」や「マイノリティ(少数派)」といった言葉も出てきましたね。ここは、1年生の人権学習でも学んだところです。自分が必ずしも、常にマジョリティにいるわけではありません。マイノリティ的な立場に気付いたとき、本音で話せる仲間の存在がとても大切で、困ったことがあれば解決できる可能性が高いのがマジョリティ側の人です。まずは気付くこと。そして行動すること。大切にしていってください。

- 偏見をもつということは、悪いことじゃないと思っていたけど、誰もが持たれる偏見の中で勝手な思い込みによって差別などが生まれているんだとわかりました。自分自身では気付いていない、小さな・些細な攻撃(マイクロアグレッション)で相手を傷つけてしまう。だから私は、相手の気持ちを考えながら行動していきたいと思いました。
- これから自分は、との接し方を考えていきたい。人への思い込みなどを自分の中ではなくしたい。当たり前というのは、偏見につながっていく。



- 「普通」「当たり前」という言葉は口にすることが多いけど、その「普通」というものは、自分がそうだから、周りの人がそうだからというものなので、社会の空気が「普通」を作っているんだと思った。またこの空気が、本当の自分の姿を小さくしていることも分かった。
- 偏見は自分の中に自然に入ってきて、それは時に相手を傷つけたりすることが分かった。自分は差別をやっていないと思っても、知らないうちに差別をしてしまっているかもしれないと思って、自分に悲しくなりました。自分はすぐ人と比べてしまうけど、比べて得することなんてないと気づきました。自分が発している言葉に責任感をもって行動したい。



- 僕は普通に過ごして友達と普通に話しているが、もしかしたら自分では気づかずに友達を傷つけているかもしれない、元樹さんの話を聞いて考えた。今まで少し気が抜けていて、傷つける言葉を言っていたかもしれない。だからこれからは、気を抜かず、よく考えて発言するようにしたい。
- 今までいじめとか部落差別とか大きな目立つ差別について学ぶことが多かったけど、日常的差別ではあまり学んだことがなかったから、身近にも差別はあるし、自分もしたり、されたりしているんだと思った。自分の差別に気付けるようになりたい。

- 自分が普通にしゃべっているつもりでも、相手が嫌な思いをしているかもしれないから、言葉には気を付けてしゃべるようにする。
- 誰にでも偏見があり、他人の偏見を飲み込んでしまい、それは空気のように入ってくる。変なイメージをもたれる方は傷つき、好きなことをとられモヤモヤとチクチクでいっぱいになってしまふことが分かった。すべてがただ、自分が思い込んだ偏見で、差別が生まれていることにつながった。自分は「マイクロアグレッション」の中で含まれる「インシユテルング効果(自分が慣れている考え方を優先し、反対意見を無視する)」ということを気にしたい。少しずつ、「相手を見かけで判断しない」ということを身につけたい。



- 私は今まで、意識して偏見するものだと思っていたけれど、それは違って、無意識に誰でも偏見をもっていると知った。また自分には何も悪気はなくとも、相手は何かモヤモヤしていたり、悩んでいたり、嫌な思いをしているかもしれないから、一つひとつの行動に責任をもとうと思った。
- 偏見はもっているものだけど、それに気づけているかどうかが大切だということが分かりました。また、いじめや差別だけではなく、偏見や思い込みも人を傷ついてしまうことが分かりました。「自分は差別をしていないから大丈夫」と思っているだけでは、差別はなくならないし、傷つく人がいるから、どうやって行動すればよいのかを考えたり、差別のことについて学習したりできるようにしたいと思いました。

- 偏見は誰にでもあるが、それを誰かと比べるのはダメだと思った。日常生活の普通の会話でも傷つく人はいるということに気付いた。
- 良かれと思って女性に言った言葉、男性に言った言葉が差別的で嫌な思いをする人もいると知って、自分も今までに知らずに嫌な思いにさせてしまった人がいるのかもしれないと思った。そういうことを防ぐために、自分の差別・偏見に気付けるように、自分が発する言葉一つひとつをしっかり考えて、責任をもっていこうと思いました。
- 「自分がもっている本来の力が周りの偏見や思い込みによって、自分が小さくなる」というお話が印象に残りました。例えば周りから、第一印象で「大人しい人」だと決めつけられてしまうと、その「大人しい人」という型に押し込められて、手を挙げたり、発表したりすることがしにくくなります。その状態が続くことで、本当に苦手になってしまいます。私もそういうところがあるので、気付くことができました。



講演会の後、3年生数名が、自分の(マイノリティ的な)立場や生い立ちを語っていました。残念ながら体育館で話をしていましたが、zoom を通して聞こえませんでしたね。あとから話を聞くと、自分の(外国に関わる)ルートや、今まで感じたことなどを自分の意思で、自分の口で語る中で、松村さんに質問や意見を求めていました。こうしてみんなの前で自分が語れるということは、自分のことを受け入れてくれるという安心感があるからこそだと思います。当然、話ができることがいいことで、話せないことがダメなことではありません。ただ、これからいろいろな人と出会う中で、安心して語り合える仲間ができるといいですね。

2年生の人権学習のテーマ『反差別の生き方に学ぶ』

今日から本格的に、人権学習のスタートです。前回は、1年生の内容を思い出しました。差別の歴史的なことから学んでいく予定です。今回の講演会の内容も、かなり通じるものがあるのだと思います。正しく事実を知り、自分と向き合い、考えを表現していってください。